

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

# 2019年度 被災者支援活動報告書



2019年9月1日～12月19日までの報告

## 佐賀県武雄市被害概要（令和元年 8 月九州豪雨水害）

前線と湿った空気の影響で、九州北部地方を中心に 8 月 26 日からの総降水量が 600 ミリを超え記録的な大雨が発生。特に浸水被害が多かったのは、佐賀県佐賀市、小城市、武雄市、白石市。また、大町町では、鉄工場の油が 11 万ℓ以上流出し、ボタ山崩落の危険性から避難指示も発令された。RSY は、特に家屋被害の多い武雄市を支援。阪神・淡路大震災で支援活動を共にし、現在は武雄市内でお寺の住職となった鈴木隆太氏が立ち上げた『おもやいボランティアセンター』で活動を展開した。

【武雄市の被害】（12 月 10 日現在・佐賀県）

- 死者 3 名
- 家屋被害（合計 1,284）
  - 全壊 2 大規模半壊 34 半壊 705 一部破損（浸水以外で） 14
  - 床上浸水 200 床下浸水 329



## 長野県長野市の被害概要(令和元年台風 19 号水害)

10月13日、長野市は千曲川の堤防決壊により甚大な被害が発生。RSYは10月14日に先遣隊を派遣。決壊付近の穂保・長沼・津田エリアに家屋倒壊・流出被害が集中し、支流の浅川が溢れて浸水した豊野地区は2～3mの浸水家屋が多数あった。特に豊野区を中心に自主避難所が開設され、約20名の要配慮者が避難。健康被害や関連死のリスクが高まっていた。また、同エリアは決壊場所から少し離れていたことや、浸水のための世帯が多く、2階まで浸水した世帯があったにもかかわらず、見た目には被害のひどさが分かりにくかったことなどが原因で、支援の手から取りこぼされていた。そこでRSYは、豊野地区豊野区を中心に支援を展開している。



被災エリアはリンゴやモモ農家も多数被災。農園に災害廃棄物が流入し、果樹の根や幹に汚泥が付着し収穫に多大な影響を与えている。

【長野市の被害】（12月13日現在・長野県）

- 死者2名 ●家屋被害（合計4,202）全壊1,029 半壊1,562 一部損壊1,611
- ※参考値 床上浸水2,591 床下浸水1,611
- 公営住宅122戸 借上型仮設住宅561戸 建設型仮設住宅63戸
- 避難所4か所・43人

### 豊野地区豊野区の被害と現状

豊野地区は2005年に旧豊野町として長野市に合併。川谷・豊野・南郷・浅野・蟹沢・大倉・石の7つの区から成り立っている。中でも被害が集中したのは豊野区で、全1700世帯中、800世帯が浸水し、うち700世帯が床上浸水だった。被害は、JR豊野駅と浅川に挟まれた南側に集中。多くが180cm以上浸水しており、全壊判定を受けた家屋も多数あった。

## 活動タイムライン

- 2019年 9/1～3 栗田・浦野が先遣隊として武雄市入り。鈴木隆太氏と合流し、武雄市・大町の被災地域や避難所を巡回。佐賀災害支援プラットフォーム主催『緊急対策会議』参加。(RSY スタッフ2名)
- 9/6 佐賀県武雄市に4トントラック一台分のボランティア活動資機材発送 (RSY スタッフ2名・ボランティア8名)
- 9/9～10 『おもやいボランティアセンター』訪問。冊子「水害にあったときに」を市役所に紹介。在宅避難者への炊き出しお届け支援に参加。今後の生活再建に関わる相談会の企画調整を実施。(RSY スタッフ1名)
- 9/16～17 震つな企画「生活再建のための個別相談会(北方町)」に参加。『おもやいボランティアセンター』運営サポート (RSY スタッフ1名)
- 10/1～3 朝日地区で「おもやい食堂」を実施。野菜いっぱいのお味噌汁を3か所・約350食提供。(RSY スタッフ2名、ボランティア2名)
- 10/10～11 「おもやいボランティアセンター」訪問。今後の活動について意見交換。
- 10/14～18 栗田・浦野・吉林が先遣隊として長野市入り。長野県NPOセンター主催「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」参加。長野県の要請を受け、浦野は「JVOAD 避難生活改善に関わる専門委員会」メンバーとして避難所を巡回。長野市避難所統括課(教育委員会)を訪問。今後の対応に向けた相談・助言を行った。豊野区事務所に開設された自主避難所を訪問。段ボールベッドの導入、レイアウト等環境改善に着手。(RSY スタッフ3名・ボランティア2名)
- 10/15 長野県長野市に4トントラック一台分のボランティア活動資機材発送 (RSY スタッフ2名・ボランティア8名)
- 10/20 名古屋駅周辺で街頭募金実施 (RSY スタッフ1名・ボランティア12名)
- 10/21～24 長野県主催「長野市避難所調整会議」および、長野運動公園避難所「実務者会議」参加。豊野区で「およりなして! あったか食堂」を開催(23日・300食提供)。長野県NPOセンター主催「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」参加。(RSY スタッフ2名)
- 10/24 長野県長野市に4トントラック一台分のボランティア活動資機材発送 (RSY スタッフ1名・ボランティア5名)
- 10/27～11/2 豊野区事務所自主避難所の運営・要配慮者サポート。長野県NPOセンター主催「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」参加。豊野区で「およりなして! あったか食堂」を開催(10月29日・250食/31日・250食/11月2日・500食)。長野県主催「長野市避難所調整会議」参加。「長野市北部レクレーションセンター避難所」の運営に関する相談・助言に対応。市内ボランティア向けの足湯講習会実施。(RSY スタッフ2名・ボランティア3名)
- 11/7～8 豊野区事務所自主避難所の運営・要配慮者サポート。長野県NPOセンター主催「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」参加。豊野区で「およりなして! あったか食堂」を開催(8日・300食)(RSY スタッフ2名)
- 11/11～13 長野県NPOセンター主催「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」参加。豊野区で「およりなして! あったか食堂」を開催(12日・250食)。「豊野地区支援関係者会議」参加。長野県主催「長野市避難所調整会議」参加。(RSY スタッフ2名)
- 11/18～19 豊野区で「およりなして! あったか食堂」を開催(18日・300食)。「豊野地区支援関係者会議」参加。長野県NPOセンター主催「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」参加。「長沼地区支援関係者会議」参加。(RSY スタッフ2名)
- 11/25～29 豊野区事務所自主避難所の運営・要配慮者サポート。28日自主避難所閉所式に参加。退所世帯に「新生活応援パック(布団・調理器具セット)」を提供。豊野区で「およりなして! あったか食堂」を開催(29日・300食)。(RSY スタッフ2名・ボランティア1名)
- 12/4～6 豊野区住民自治協議会・福祉健康部会会議出席。建設型仮設入居者(Tさん)を訪問。豊野区で「およりなして! あったか食堂」を開催(5日・200食)。「とよのぬくぬく隊ミーティング(豊野地区支援関係者会議が名称変更)」参加。みなし仮設住宅入居者、在宅避難者宅訪問。(RSY スタッフ3名)
- 12/12～13 とよのぬくぬく隊主催・在宅避難者支援拠点「まちの縁側ぬくぬく亭」オープニングセレモニー参加。拠点整備・運営サポート。(RSY スタッフ2名)
- 12/19 RSY主催「台風19号支援活動報告会」開催。

青字：武雄市での活動  
赤字：名古屋での活動  
緑字：長野市での活動

## ●武雄市での支援 今後の生活再建を考えるミニ相談

震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）加盟団体との連携のもと、冊子『水害にあった時に』を活用し、「生活再建のための相談会」を開催。武雄市、佐賀県建築士会、佐賀県弁護士会、OPEN JAPANなどの協力を得て、被災者が抱える床下の処置や乾燥の方法、行政の支援制度などについて気軽に相談できる場を提供した。会場にはホッと一息つける工夫



として、無料カフェを設置。現在も、住民のニーズに応じて、『おもやいボランティアセンター』のイベントやサロン活動と抱き合わせで継続されている。

相談会実施日：9月7日（朝日町・被災者宅）、14日（朝日町公民館）、15日（橘町公民館）、16日（北方町公民館）



## 在宅避難者炊き出し支援「おもやい食堂」

水害の被害というと、泥かきや掃除というイメージが先行するが、1階のトイレやお風呂、台所、洗濯スペースなども被災するため、日常生活に大きな支障をもたらす。特に食事の問題は深刻で、台所の被災で料理が作れない、疲れすぎて作る気にもなれないという声が相次いだ。その結果、「総菜やレトルト食品ばかりで体調を崩した」「子どもに栄養のあるものを食べさせられない」など、若いママたちの悲痛な声も多く聞かれた。

そんな中、野菜いっぱいの温かい食事はとても

喜ばれた。

炊き出しは、毎日地元のライオンズクラブが提供していたが、活動終了に伴い、RSYがその後2日間「おもやい食堂」として引継いだ。調理は、NPO法人リエラ（大分県）、地元女性ボランティアと一緒に取り組んだ。各戸への配達は、「おもやいボランティアセンター」をフォローした。

配達を通じて、家の様子や健康状態、生活再建に関わる行政書類の申請状況などを把握し、高齢者や障がい者、子育て世帯を中心に、継続的に見守りが必要な方々が浮き彫りになった。



## ●長野市での支援 避難所への支援

栗田が代表理事を兼務する「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）」は、災害発生前から、長野県・長野県社協・長野県 NPO センターらと、災害時の 3 者連携について検討を重ねていた。これがきっかけで、長野県庁災害対策本部にいち早く「ボランティア班・NPO 支援チーム」が設置され、RSY もこれに加わり、長野市や外部支援者らとの連携は非常にスムーズだった。



JVOAD 避難生活改善に関わる専門委員会メンバーである浦野は、県や市からの要請で、市内に開設された指定・自主避難所の環境改善や運営へのアドバイスを求められた。避難所の環境改善や統合、住民による自主運営について、過去の事例を紹介し、健康被害や関連死防止の対策の重要性について情報提供した。



## 「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」参加

長野県災害時支援ネットワーク（以下、長野県災害支援ネット）は、長野県社会福祉協議会に事務局を置き、災害時に行政・社会福祉協議会・NPO等の三者連携をスムーズにするための役割を担っている。現時点で、県内に活動に入っている県内外の NPO や NGO は、県外約 56 団体、県内約 38 団体。各団体が互いに情報共有を行い、連携のきっかけを作っている。現在は週 1 回の開催。RSY も積

極的に参加し、避難所や在宅避難者のニーズの共有、協力者の呼びかけをしている。また、会場で足湯講習会も実施。地元ボランティアから「長野足湯隊」の結成を望む声も飛び出した。

地元の要望で、12月13日には、2回目の足湯講習会を開催。4名が参加し、在宅避難者や仮設住宅入居者に向けた取り組みの広がりが期待されている。



## ●豊野地区豊野区への支援 自主避難所サポート

豊野地区豊野区事務所に併設された公民館は、自主避難所だったため、行政支援はほとんどなく、区の役員のみで運営されていた。避難者約 20 名のほとんどが高齢者・幼児世帯。疲れ切った役員の姿や、座布団 3 枚と薄い毛布だけの粗末な寝床、不衛生なトイレ・居住スペースで健康被害や関連死のリスクが高まっていることを確認し、早急に支援が必要だと判断した。10 月 17 日～11 月末ま

で、継続的にスタッフ・RSY 看護師ボランティアを派遣。寝床や衛生環境の改善、健康チェック、要配慮者の見守り・生活支援、運営のルールづくりなどに関わった。避難所閉所に際し 11 月 28 日に開催された「おわかれ会」にも参加。生活協同組合連合会アイチヨイス様からご協力頂き、退所世帯に『新生活応援セット』として、寝具と調理用具を提供した。



## 公営・みなし・建設型仮設住宅転居者への個別訪問

自主避難所退所後の新しい住まいに慣れるまでの生活サポートや、孤立・孤独感の防止を目的に、ひとり暮らし世帯の個別訪問活動を実施している。「地元を離れて本当に寂しい」「移動手段がないから元の家や友達に会いに出かけることができない」「新しい場所は右も左も分からず、戸惑ってばかり」などの声が聞かれている。情報は社協らと共有し、地元での継続的な支援につなげられるよう働きかけている。



## 在宅避難者への支援 「およりなして！あったか食堂」

区自治会と協力して、10月23日より、在宅避難者の炊き出し支援「およりなして！あったか食堂」を開催している。初日は、プロのキッチンカーにより断水状態の中、作りたての焼きそばなどを200食提供いただいた。その後、被災地中心部に位置する学習塾の駐車場をお借りでき、地元ボランティア団体や福祉施設などの支援の輪が広がり、11月末までに全17回・約5000食を提供するこ

とができた。受付にて、住宅マップで来場者にどこから来たかマークしてもらい、取りに来られない世帯の情報なども得て、デリバリーした。また、食堂スペースを作り、一息ついたり、悩みが相談できる場所づくりにも力を入れた。物資配布コーナーでは中日本氷糖株式会社様からの氷砂糖や中日新聞株式会社からの飲料とポケットティッシュは人気があり、すぐになくなってしまった。



## 在宅避難者への支援 「個別ヒアリング」

受付時に合わせて取り組んだのが個別ヒアリングで、210世帯分の生活状況が把握できた。兵庫県立大学の協力を得て分析した結果、要配慮者世帯の特定や、在宅避難者の割合、困りごとが明確になった。世帯の半分以上が在宅および親せき・知人宅で生活しており、特に食事、洗濯、移動、情報入手に困っていることが分かった。この結果を県や市にも報告し、支援から取り残されがちな、在宅避難者への支援の緊急性と切迫性を訴えた。



## 在宅避難者への支援 「まちの縁側ぬくぬく亭」サポート

「およりなして！あったか食堂」が発展し、12月12日から『まちの縁側ぬくぬく亭』として新たにスタートを切った。長野県社協の協力で5.4m×約10mのプレハブが設置され、常設型のサロン活動や、物資・食事提供、情報発信、個別訪問、生活支援プログラム等が実施される。住民からは、既に「みんなで集まれる場所ができるのはとても嬉し

い」という声も聞かれている。運営は、地元の福祉施設「賛育会」が事務局を担い、地元ボランティア団体、社協、RSYも含めた外部支援者などからなる『とよのぬくぬく隊』が担う。中部土木株式会社様のご協力でトイレカーも設置することができた。RSYは運営が軌道に乗るまでサポートを続ける。



## 地元内外のボランティア活動サポート

RSYは被災地域との仲介役として、人・モノ・金をつなぐ支援を行っている。スタッフを継続的に派遣し、地元の自治会やボランティア団体、社会福祉協議会や行政などと丁寧に関わることで、企業のCSRや個人、ボランティア団体のお申し出を、被災地にタイムリーにおつなぎすることができる。被災地の復興を願う多くの方々の想いをこれからも現地に届け続ける。



中日本冰糖様の氷砂糖を地元高校生が手渡し

## ●名古屋からの支援 イベントでの被災現状広報

名古屋で開催されたチャリティコンサートや防災イベントなどの会場で、積極的に、被災地の現状を紹介している。長野から持ち帰ってきた「水害を逃れたリンゴ」を籠いっぱい並べ、写真の掲示とともに募金活動を行うことで、被災地の現状を広く知っていただけるよう活動している。来場者からは、「せっかく収穫したものが出荷できないなんて、実家がナシ農家だから、つらさはよくわかる」などの感想が聞かれた。



## 募金活動

ぼうさいこくたい 2019@NAGOYA に合わせ、10月20日に名古屋駅周辺で街頭募金を実施した。延べ12名のボランティアに協力いただき91,578円の募金が集まった。

個人や団体、企業からお申し出をいただいたり、名城公園にある tonarino で開催された運動会や、大学のボランティア交流会、各種研修会会場でも募金活動をし、これまでに1,768,041円の募金が集まり、現地での活動費として活用させていただいた。



令和元年8月九州豪雨以降に活動寄付を賜った方々

小澤一志、高木真美、株式会社ラッシュジャパン、武藤寿彰、浦沢尚美、名古屋経済大学高蔵高等学校3年松組、山田さくら、堀仁美、橋本知佳、中部土木株式会社、濱田謙二、混声合唱サランドTs、小野寺歩、山本由香、森奈央美、秋田谷薫、岡田公夫、安井咲子、石黒好美、矢上拓、日本労働組合総連合会愛知県連合会、白石憲邦、五藤朱美、株式会社山田組、防災アマテラス、市原佳代、松下泰久、藤井文香、浅井汎見、酒井照子、葛谷潔昭、森本優花、高倉弘行、山田泰久、早瀬尚美、河原美和、杉田美由紀、山田顕生、大橋基博、小原とも子、今泉活代、山原義明、  
24時間チャリティリレーマラソン会場(9/7-8)、北海道支援活動報告会会場(10/9)、街頭募金活動(10/20)、トナリノ運動会会場(10/22)、逸品銘品テストマーケティング会場(11/8)、Tsjoyライブ会場(11/22)、インタープリター講座会場(11/23)、淑徳大学コラボメッセ会場(12/8)

ありがとうございました。

＝順不同・敬称略＝

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

# 2019 年度 被災者支援活動報告書

2019 年 12 月 19 日発行

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード  
名古屋事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2 階

**tel** 052-253-7550

**fax** 052-253-7552

**e-mail** info@rsy-nagoya.com

**web** <http://rsy-nagoya.com/>

**twitter** rescuestockyard

**facebook** rsy.nagoya